



未来につながるまちをつくる

復興

復興・創生のまちづくり

市では、これまで住宅除染や農産物のモニタリング、風評被害払拭のための首都圏での特産品のPRなど、復興に向けたさまざまな取り組みを行ってきました。

今年度も、市民の皆さんが安全・安心に過ごせるよう、迅速かつ着実に除染を進め、健康管理、モニタリング事業にも継続して取り組んでいきます。併せて、風評と風化に対しても、情報発信とその対策を継続していきます。

住宅除染については、現在市内13地区のうち、10地区が完了し、1地区が間もなく完了予定です。残り3地区についても、今年度内の完了に向けて全力で進めていきます。

未来を担う子どもたちのために

原発事故により子どもたちの屋外での活動が制限され、外で遊ぶ機会が減りました。

震災から5年が経過した今、除染の進行やホールボディカウンターやガラスバッジ・甲状腺検査などのさまざまな取り組みにより、屋外で遊ぶ機会は徐々に回復してきました。

市では、今後も引き続き、整備を進めてきた「プリンス・ウィリアムズ・パーク」屋内外あそび場や、今年秋完成予定の「(仮称)屋内運動施設」などの利用促進を図り、また小中学校とも連携し、ハード・ソフトの両面から「子どもの体力向上」に取り組んでいきます。

INTERVIEW



プリンス・ウィリアムズ・パークプレーリーダー
西 弥成さん

時間・仲間・空間を作っていく

プリンス・ウィリアムズ・パークでは、親子とのコミュニケーション・見守り・清掃に力を入れています。スタッフは積極的に親子とかかわり、施設での遊びを豊かにしてくれています。

子どもにとって遊びは生きることです。しかし、今、子どもたちの遊びが失われてきています。それは「空間」「仲間」「時間」の3間がなくなったからだと言われています。子どもの遊び環境を整え、子どものよりよい成長の場となるよう、プリンス・ウィリアムズ・パークは、いつでも遊べる「空間」になり、遊びの「仲間」づくりをサポートし、子どもたちが遊ぶ「時間」を増やしていきたいと思っています。

また、『遊びって楽しい』と感じてもらえるような施設作りをしていくことで、プリンス・ウィリアムズ・パークにという屋内外の遊び場の魅力を発信していきたいと思っています。

防災



自助・共助・公助の力を高める

市では、東日本大震災以降、災害に強いまちづくりに取り組んでいます。災害に強いまちづくりにはどのようなまちでしょうか。災害対応において「自助・共助・公助」の役割分担が大変重要で

す。自助とは、自分の身を自分で守ること。共助とは、近隣が協力しあい地域を守ること。公助とは、行政・警察・消防などによる救助活動のことです。もし大規模災害が起こってしまったとき、公助だけでは、どんなに災害に備えていてもすべてに対し迅速な対応は困難です。個人での災害への備え、地域での災害への備えが重要になってきます。

市は、そうした自助・共助・公助のバランスが取れた災害に強いまちづくりを目指していきます。そのため、今年度も総合防災訓練を開催し、それぞれが災害に対応する知識を深め、役割を再認識し、いつ起こるか分からない災害への備えを強化します。

自主防災組織設立への支援

また近年、災害に対する地域での備え、そして火災発生時の迅速な初期消火のためにも、自主防災組織の役割への期待が高まっています。

そのため市は、そうした自主防災組織を新たに設立する地域を後押しするため、設立する際の災害対策資機材や救助用資機材、避難用資機材の購入に対し、1団体最大20万円の補助を行っています。

INTERVIEW



愛宕町内会防災組織の皆さん

震災でも活躍した自主防災組織

愛宕町内会防災組織は平成8年から活動を始め、今年で20年目を迎えます。設立のきっかけは昭和61年に起きた8.5水害でした。地域を自分たちで守ろうと町内会で設立しました。有事の際の役割を決めているほか、年1回は町内の防災訓練を計画し、みずいる公園の防火用水を使った浄水訓練や炊き出し訓練、初期消火訓練などを行っています。震災時はその経験を生かし、安否確認や炊き出しを行いました。

町内会単位で自主防災組織を

改まって組織を作るのは大変ですが、町内会で体制作りをし、そこから自主防災組織に切り替えていくのが良いと思います。